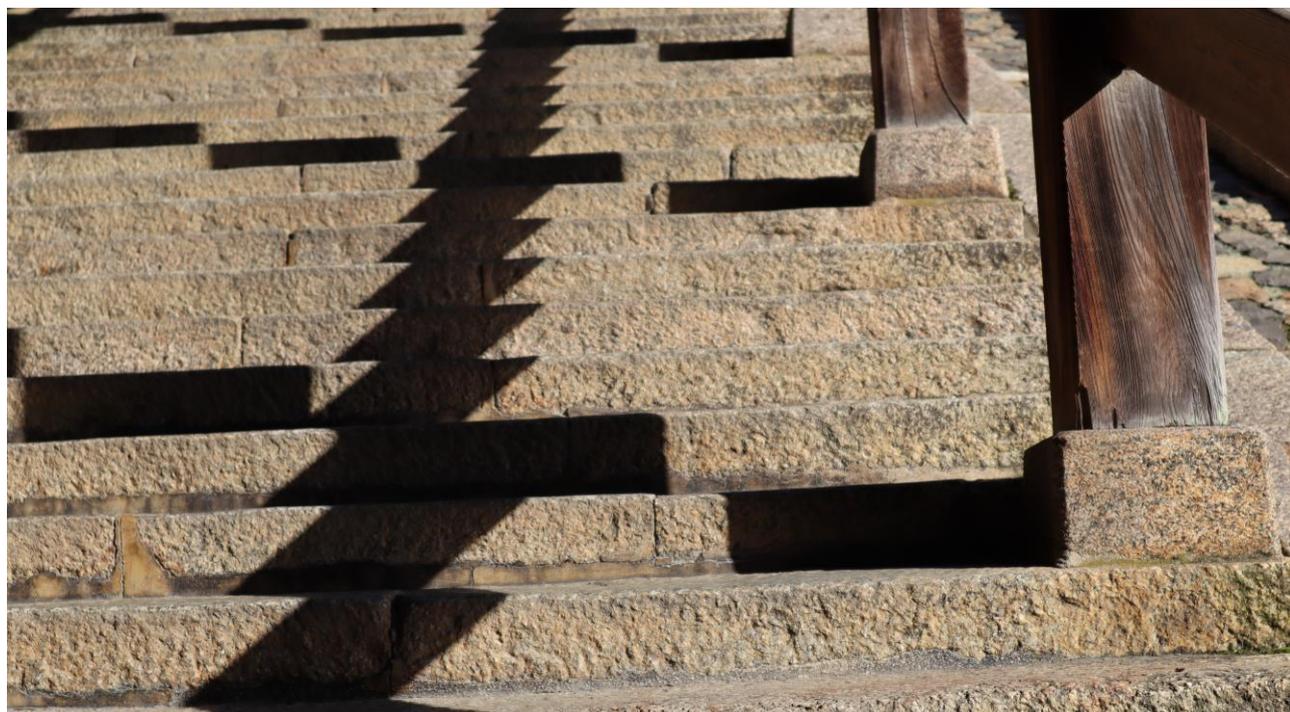


寒空に身を剥ぎながら
街アート(進一郎)



冬の日影落としたり垂の紋(健夫)



平成の大川端や

水温む (隆)

寸評：

1) まだ来ない少し残してあげたのに 中村 晃也

枝先の輪切りのミカンに来たメジロ。今朝はお相手がまだ来ない様子だ。鳥の可愛いしぐさと色彩のコントラストが印象的。

2) ぶつぶつと聞こえる対話寒の池 安藤 晃二

枯れ葦の間を泳ぎ、始終お互いに呼び交わすつがいの鴨。

満足そうな呼び声が人間にはブツブツ言い合っているように聞こえたのであろう。画面の構成と落ち着いた色調が心地よい。下5の寒の池の一言で情景が具体化され作品が締った。

3) 寒空に身を剥ぎながら街アート 長尾 進一郎

街路樹によく用いられる青桐の肌が剥がれている。葉の残っていない冬には肌が露わに見えるのだ。その模様はユニークでまるで街中のアートに思える。着眼点がよかった。

4) 冬の日影落としたり垂の紋 下山 健夫

垂（しで）とは玉串や注連縄につけるヒラヒラした薄紙のことで、冬の日が差して石段に垂の影が映ったというのである。普段なら気がつかないような場面を撮り、洒落た句をつけた。

5) 平成の大川端や水温む 池田 隆

隅田川、遊覧ボートを中心に置きスカイツリーを遠景に、和服姿の女性を近景に配した盛り沢山の道具立てだが、余りゴチャゴチャしていないのは、アングルのせい、色調のせい。句の下5の水温むが季節感を表すとともに平成最後の春を懐かしむ情緒を上手く醸し出している。



今月は下山さんの出題。彦根城址近くの俳遊館の玄関にあった「**フォト句展示中**」の張り紙を撮ったものという。張り紙の字が細かくて句を付けるのに皆さん苦労した模様。

寸評：

1) 啓蟄や覗いてみるか**フォト句展** 池田 隆

彦根でフォト句展があるなんてチョット覗いてみたくなる。

2) 締切日つけ句浮かばずト**フォト苦**かな 長尾 進一郎

フォト句は楽しいばかりとは限らない。フォト苦の場合も。

3) 宗匠の精進せよとの顔浮かび

下山 健夫

褒めるときはベタ褒め。ダメなときはこき下ろす。最後は笑いで締め、放課後に美味しい食事を共に楽しむ。フォト句会のプロマネを宗匠と呼ぶならまだしも宗主と呼ぶ輩がいる。ペンクラブの会員なら宗主の意味が判っている筈だが？

4) 今日もまた他流試合で腕磨く

安藤 晃二

磨いても磨いても名句つくれずじっと手を見る。

5) 扉撮り名句つければ入室可

池田 隆

張り紙のある俳遊館の扉の写真を撮り、それに句をつければ作品を展示してもらえるのだろうか？ 生憎この日は時間が遅く入室／見学はかなわなかった由。